

4 ブラジル

1097

昭和12年8月10日 在ブラジル沢田大使より

広田外務大臣宛

在伯

特命全權大使 澤田 節藏

「ブラジル移民制限問題の最近の経過に関する資料送付について」

公機密第二三九號

昭和十二年八月十日

在伯

(9月17日接受)

特命全權大使 澤田 節藏(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

公信寫送付ノ件

本使發在南米各公使宛八月十日附機密合第一一號公信寫何

等御參考迄別紙ノ通送付ス

伯國ニ於ケル移民問題ノ最近ノ経過

記

去ル五月末ヨリ六月初ニカケ當地ニ開催セラレタル全伯領事會議ノ要領報告ハ當時貴方ニモ送付シ置タル處同會議ノ席上當國ニ於ケル移民問題ノ経過ノ大要ニ付瀧澤書記官ヨリ別記ノ通説明シ置タルカ右何等御参考迄茲ニ送付ス

本信寫送付先 本省大臣 管内各館

(別紙)

機密合第二一號

昭和十二年八月十日

一九三四年伯國ニ於テ新憲法ガ公布セラレ其ノ結果各國移民ノ毎年入國數ハ最近五十年間ニ入國シタ同國移民總數ノ二分二限定サレタ而シテ右憲法二分條項施行ノ爲ニ法律ガ作成サルルコトトナツテ居リ又一方移民制限ニ對スル反対

論モ生ジ爾來移民問題ガ種々論ゼラルルニ至ツタガ茲ニ本問題ノ今迄ノ経過ノ骨子ヲ説明ス

(一)憲法移民條項ノ規定ニ從ヒ其ノ施行法律ヲ作成スル爲移民委員會ナルモノガ組織サレテ居タルニ同委員會ハ種々内部的事情ノ爲殆ト會合セス同委員會ニ代リ勞働省植民局長及同省法律顧問「オリヴエイラ・ヴィアンナ」ノ二名ガ主トシテ一ノ法案ヲ起草シタ其ノ内容ノ大体ハ客年五月ノ大統領敎書ニ記載サレ其ノ後全文發表サレタ又當館ハ全文發表前内密ニ之レヲ入手シ得タガ同案ハ種々ノ經緯ヲ經テ結局下院憲法委員會ニ附託セラレ南大河州出身「トビノ」ハ移民問題ノ報告者ニ指名セラレタ

同案ハ「コータ」外入國ヲ歐洲移民ニ限り容認シ植民地内學校ニ於テ十二才以下ノ子弟ニ對スル外國語教育ヲ禁止シ外國語敎科書、外國人教師等ヲ禁止シ、集團地ニ三割以上ノ内國人「コロノ」ノ存在ヲ必要トシ又集團地ニ於テハ同一人種ニ屬スル外國移民ニ對シ土地ノ讓渡、賃貸ヲ禁止スル等我カ方ニトリ不尠不利ナル條項ガアソタ依而我ガ方トシテハ外務大臣其他各方面ニ對シ直接間接ニ右條項ノ改訂方内密ニ運動シ新聞紙等ニモ其ノ不當ナ

ル所以ヲ謳ハシメ又教育問題ニ付テ同案反対ノ立場ニアル獨逸側ノ反対運動ヲ助成セシムル等種々ノ手段ヲ執ツタノデアル特ニ法案ノ内容ニ付テハ一々詳細點検シ之ニ對スル我カ方「オブザーベーション」ヲ可然方法デ提出シテ置イタガ之ハ當國外務省ノ意見トシテ關係方面ニ通達セラレタ右運動ハ相當效果ヲ奏シ議會、政府要人中ニモ本法案ハ幾多不當ナル箇所アルヲ理解スルニ至ツタ(二)一方聖州側ニ於テモ本法案ニ對シテ不満足ヲ感シ同州政府トシテノ對案ヲ作成シ月末之ヲ通商審議會ノ手ヲ經テ聯邦議會ニ提出スルニ至ツタ同案ハ大体勞働省法案ヲ骨子トセルモノデアルガ原案ノ矛盾セル諸點ヲ改メ又我カ方ニ不利ナル條項ニ付テハ前述ノ當方「オブザーベーション」ヲ採擇シタル所カ尠クナイスクテ同案ハ大分我カ方ニ有利トナツタ即チ「コータ」外入國移民ヲ歐洲移民ニ限ラス法規上ニ於テハ何レノ國民モ移入シ得ルコトトシ集團地ニ於ケル土地ノ讓渡、賃貸制限ヲ削除シ最少「コータ」現在百人ヲ三千人ニ引上ケ又入國手續ヲ緩和セル如キハ其ノ例デアル但シ教育條項ニ對シテハ勞働省原案ヲ其ノ儘採擇シタ而シテ通商審議會ハ十二月初旬同

案二對シテ多少ノ修正案ヲ附シ可決シ政府ヲ通シテ之ヲ

憲法委員會ニ廻付シタ

(三)「トビノ」案ハ之等ノ諸點ヲ參照シテ自己ノ案ヲ作成シ

之ヲ一月中旬委員會ノ各委員ニ配布シテ右「トビノ」案ハ大體聖州法案ニ據ルモノデアルガ(イ)伯國內ニ不動產ヲ所有スルモノハ非移民トシ、(ロ)最少「コータ」三千人ヲ四千人トシ、(ハ)集團地ニ於ケル學校ノ教員ハ將來

伯國人以外歸化人ニテモ差支ナキコトトシ、(ニ)十二才以下ノ少年ニ對スル外國語禁止規定ヲ削除シタ右ノ内(イ)、(ハ)、(ニ)ハ我カ方ノ意向通リニ改正セラレタル次第デアル

(四)以上ノ如ク最初我カ方ニ不利ナリシ勞働省法案ハ漸次緩和サレ聖州法案トナリ又右聖州法案ハ一層緩和サレテ「トビノ」案トナツタ次第デアルガ議會及言論界ノ一部ニ於テハ移民法案ニ關シ對日空氣好轉ノ傾向ニ向ヒツツアルコトニ對シ反抗ノ氣勢ヲ擧ケルモノアリニヨリ

「ジヨルナル・ド・コメルシオ」等ニ屢々排日記事掲載サレ又議會ニ於テ三月初メ「シャヴィエル・デ・オリヴエイラ」ガ排日演說ヲ爲シ壽府勞働事務局萩島^(萩カ)ノ論文等モ

之カ力爲曲解利用セラレ右法案ニ對スル反對者ガ表面ニ立チテ騒ギ出スニ至ツタ一方當國ノ政情ハ大統領選舉問題ヲ圍リ種々暗鬭行ハレ報告者「トビノ」ハ南大河州ニ歸省シタ儘最近ニ至ル迄上京シナカツタ様ナ形勢デ移民問題ハ豫期ニ反シ仲々議會ニ於テ正式討議セラルルニ至ラス有耶無耶ノ儘通常議會ニ持越サレタ

(五)斯様ニ問題ノ片付カヌ一方聖州ニ於ケル勞力不足ノ問題等段々急迫ヲ告ケル聲高マリ移民法案作成ノ如キ繁雜ナ手續ニ依ラスシテ一層簡單ナ方法デ勞力不足ノ解決、移民入國ノ制限緩和ヲ計ラントノ議論ガ起ツタ右ニ關スル提案左ノ通り

(イ)聯邦議會代議士「バレット・ピント」ハ憲法條項中ノ二分ヲ五分ニ引上グベシトノ趣旨ノ憲法改正案ヲ準備シ贊成議員ノ署名ヲ求メ既三百餘名ノ署名ヲ獲得シタ由デアル但シ同案ハ未タ公式ニ議會ニ提案サルルニ至ラス

(ロ)勞働省ハ移民ト植民トヲ區別シ州政府ノ要求ニヨリ入國セシムル「コロノ」ハ移民ニ非ス(從テ憲法制限條項ノ適用ナシ)トノ趣旨ノ命令案ヲ四月末起草シ之ヲ

通商審議會ニ諮ツタ然ルニ審議會ハ之ニ對シ賛成ノ意ヲ表シナカツタトノコトデアル

(ハ) 聖州選出上院議員「アルカンタラ・マシヤード」ハ憲法二分條項ニ對シ「州政府ノ誘入スル契約移民ハコ一

タ外トス」トノ増補ヲ通常議會ニ提出スル意向ナル由新聞紙上ニ發表サレタガ現在迄ノ所何等提案ナシ

(二) 通商審議會専門委員「ヴァレンチン・ボーサス」ハ三月末通商審議會ニ對シ「各國移民入國最低割當ヲ三千人」トノ案ヲ提出可決ヲ得タル由デアルガ同案モ亦其ノ儘トナリ居リ最近勞働省令トシテ公布サレタル本年度移民割當表ニ依レハ最低「コータ」ハ依然百人ト規定サレテ居ル

(六) 以上ノ通り移民法問題ハ頗ル錯綜シテ來タガ、第一、當國政局ガ大統領選舉問題ニ沒領(頭々)シ居ルコト、第二、中央ト聖州ト政治的對立ヲ見テ居ル今日ニ於テ主トシテ聖州ニ利害關係アル本法案ハ當分討議ノ見込ナシ、等ノ理由ニヨリ通常議會ヲモ容易ニ埒アクマイト觀側(測)シ居ル者アリ又假リニ議會ニ上程サルルトシテモ排日議員「シヤヴィエル・デ・オリヴエイラ」、「モンテイロ・バーロス」、

「ティシエロ・レーイチ」、「アルツール・ネーヴア」、上院議員「クンニヤ・メロ」等ガ我方ニ對シ妨害スルモノト覺悟シ置ク要アリ又移民ノ誘入ハ差支ナイガ之ハ歐洲移民ニ求ムヘシトナシ日本移民ハ困ルト云フ考ヘモ未タ一部ニハ相當強ク行ハレテ居ルコトモ否ムベカラザル事實デアル又議會ニ依ラズシテ行政的手段ニ依リテ片付ケントスル案モ果シテ政治的ニ纏リ得ルヤ疑問アルノミナラズ立法技術ノ見地カラ觀テモ相當困難アルト認メラル以上ハ悲觀材料デアルガ一方聖州ニ於ケル勞力不足ハ次第高マリツツアリ例ヘバ同州農會ノ如キモ最近勞力不足解決ノ必要ヲ決議シ居リ同州トシテハ最早此ノ儘捨テ置ケヌ狀態ニ立至ツテ居ル又中央ノ有力者ニ於テモ廣ク伯國開發ノ見地ヨリ移民入國ノ緩和ヲ計ルベシトノ聲相當高マリツツアル様ニ觀取セラレル依而何時迄モ本問題ガ放任サレルモノトモ考ヘラレヌ又一般ノ對日感情モ大體ニ於テ好轉シテ來タ様ニ見受ケラレル結論トシテハ目下ノ所本問題ノ如何ニ落着スルヤ豫想ソカズ特ニ一般政局ノ成行ハ本法ノ成否ト頗ル密接ナル關係アリト考ヘラルル次第デアル

昭和12年11月11日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛電報)

ブラジル新憲法公布および同憲法中に移民一

分条項は残存の旨報告

リオデジャネイロ

11月11日後発

本省

11月12日後着

第一〇一號

(編註)

往電第一九九號二關シ

(編註)

新憲法十四日公布右ハ百八十七條ヨリ成り別電第二〇二號

(省略)

ノ前文ヲ附シ其ノ内容体裁從來ノ憲法ト異ル所少ナカラス
 主タル特徵ハ大統領ノ權限ヲ強化シテ其ノ任期ヲ延長シ又
 議會ノ組織ヲ改メテ其ノ權限ヲ縮小シ新ニ國民經濟審議會
 ヲ設ケ居ルコトニアリ尙移民二分條項ハ相當字句ノ修正ア
 ルモ其ノ儘存置サレ居レリ新憲法主要規定別電第二〇三號

(省略)

新憲法發布及議會解散ニ伴ヒ豫テ議會ニ附議中ナリシ移民
 法案モ自然消滅ト解セラルト共ニ新憲法ニ於テハ新ニ移
 民法ノ制定ヲ豫想シ居ルニアラスヤトモ考ヘラレ旁是等ノ
 點ニ關シ關係各方面ニ就キ内探ヲ續ケ居ル次第ナルカ往電
 第二二五號外務大臣ニ會見ノ際本問題ニ言及シ勞力不足ヲ
 感シ居ル伯國トシテ日本移民ノ流入ハ其ノ開發ニ貢獻スル
 所アルハ疑ナク右ハ貴大臣トシテモ從來ヨリ同感ノコトト
 承知シ居リ現ニ一昨年來外務當局モ二分條項緩和策トシテ
 州誘入移民ハ「コータ」外トナスヘシトノ案ヲ主張シ居ラ
 レタル様了解シ居リ又曩ニ本使勞働大臣ト懇談ノ際同大臣
 モ當時既ニ同案實現方努力中ニテ年末迄ニハ目鼻付クナラ
 ント迄内話サレタルコトアリ(拙信六月二十二日附機密第

昭和12年12月2日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)ブラジル移民制限措置の緩和に関する外相お
よび參謀總長との意見交換について

リオデジャネイロ

12月2日後発

本省

12月3日夜着

第二三九號

(編註)

新憲法發布及議會解散ニ伴ヒ豫テ議會ニ附議中ナリシ移民
 法案モ自然消滅ト解セラルト共ニ新憲法ニ於テハ新ニ移

民法ノ制定ヲ豫想シ居ルニアラスヤトモ考ヘラレ旁是等ノ
 點ニ關シ關係各方面ニ就キ内探ヲ續ケ居ル次第ナルカ往電
 第二二五號外務大臣ニ會見ノ際本問題ニ言及シ勞力不足ヲ
 感シ居ル伯國トシテ日本移民ノ流入ハ其ノ開發ニ貢獻スル
 所アルハ疑ナク右ハ貴大臣トシテモ從來ヨリ同感ノコトト
 承知シ居リ現ニ一昨年來外務當局モ二分條項緩和策トシテ
 州誘入移民ハ「コータ」外トナスヘシトノ案ヲ主張シ居ラ
 レタル様了解シ居リ又曩ニ本使勞働大臣ト懇談ノ際同大臣
 モ當時既ニ同案實現方努力中ニテ年末迄ニハ目鼻付クナラ
 ント迄内話サレタルコトアリ(拙信六月二十二日附機密第

編注 本書第51文書。

~~~~~

一八二號參照) 依テ當方トシテハ早晚此ノ意味ニテ何等力ノ措置アルヘク殊ニ憲法改正ノ機會モアラハ即時ニモ之力實現ヲ見ルモノカト内々期待シ居リタル次第ナルカ新憲法ニ於テモ舊憲法ト何等異ルコトナク些少異様ニ感シ居ル處新政府ニ於テハ早晚移民制限緩和ノ措置ヲ講セラルコトナルカレハキヤ幸ヒニシテ遠カラス之カ實現ヲ見ルコトアラハ右ハ近來好轉ノ途上ニアル日伯關係ヲ一層緊密ナラシムルコトト信シ居ル旨屢々述ヘタル處

同大臣ハ移民問題ニ付テハ目下勞働大臣ニ於テ折角考究中ニ付本日申入ノ次第八勞働大臣及大統領トモ篤ト話合フコトト致スヘシト述ヘタルニ付本使ヨリ重ネテ盡力方依頼シ置キタルカ(其ノ後勞働大臣更迭)更ニ往電第二二八號參謀總長ト會見ノ際前記外務大臣ニ述ヘタル所(ノ)趣旨ヲ敷衍懇談セル處同總長ハ實ハ新憲法案内檢討ノ際自分ハ同憲法ノ事實上ノ起草者タル内務大臣ニ對シ二分規定ハ伯國ノ現實ニ即セサルヲ以テ今少シ外國移民ノ入國ヲ促進シ得ル様適當條項制定方然ルヘキ旨指摘シタル處同大臣ハ新憲法ニハ根本的變革ノ條項鮮カラス而シテ之ハ何レ人民投票ニ附スコトトナリ居ル處「ナシヨナリズム」ノ主張強キ今日

特二本條項ヲ一舉ニ改訂スルコトトセハ一般ノ氣受如何トモ考ヘラレ事ニ依レハ右改訂ヲ繞リ反對氣勢ヲ揚ケル者ナキヲ保セス依テ差當リ同條項ハ之ヲ存置シ置キ將來適當ノ時期ニ法令ニ依リ之ヲ決定スルコトトスル方然ルヘシトノ意見ナリシニ付自分モ右説明ヲ了トシタル次第ナルカ差當リ議會モナク此ノ種ノコトハ大統領ノ命令乃至ハ關係省令ニテ何分ノ決定ヲ爲シ得ルナランカ目下ノ所勞働大臣更迭直後ノコトニモアリ關係當局ニ於テ此ノ種法規制定中トノコトハ聞及ヒ居ラサルモ御話ノ次第八自分ヨリ大統領初メ新勞働大臣及内務大臣等ニモ充分傳へ善處シ度シト述ヘタルニ付此ノ上共本件好轉方盡力アリ度キ旨依頼シ置キタル管下各領事へ暗送セリ

~~~~~

1100

昭和13年2月9日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

**検討中のブラジル新移民法において日本人移民
へ差別待遇をなさざるよう外相へ要請について**

リオデジャネイロ 2月9日後發
本 2月10日夜着

往電第三七號ニ關シ

移民委員會ハ既報ノ通り昨年壽府資源委員會ニ於テ伯刺西爾代表トシテ出席セル外務省經濟局長「ムニス」モ參加シ居リ兎角本邦移民ニ對シ面白カラサル議論行ハ雷動モスレハ我方ニ對スル差別待遇ノ決定ヲ爲スヤモ測ラレサル空氣動キ居ルヤノ聞込アリ依テ勞働、農務兩大臣及參謀總長ニ對シ斯様ノコト果シテ事實ナラハ之カ防止方極力盡力アリ度キ旨内々依頼スルト共ニ本丸日本使外務大臣ヲ往訪種々懇談ヲ重不タルカ其ノ際同大臣ハ本使ノ問ニ對シ新移民法制定準備既ニ相當進捗シ遠カラス大統領令トシテ發布セラルルコトト豫想シ居ル處未タ移民委員會ヨリ充分ノ報告ヲ受ケ居ラサルニ付詳細ノコトハ申兼ヌルモ新法律ニ於テハ主トシテ現行移民諸規則中ノ不條理不便ヲ除去調整セントスルモノニシテ例ヘハ歐洲大戰後ノ新興國ニ對スル割當ノ調整ヲ計リ移民ノ呼寄狀ノ如キ煩雜ナル入國手續ノ簡易化ヲ計リ以テ外國移民入國數ノ増加ヲ計リ得ルコトナルヘキカ日本移民ニ付テハ何等差別待遇ヲ爲スカ如キコトナキノミナラス少クトモ現狀ヲ改惡スルカ如キコトナキ旨述へ

州呼寄移民及十四歳以下兒童除外ノ件ニ付テハ何等承知シ居ラスト答ヘタルニ付本使ヨリ以上兩件ニ關スル從來ノ經緯ヲ述ヘタル上本邦ニ於テハ滿洲移民ノ外支那事變ニ基ク同方面ヘノ移住者增加ノ爲大量移民ノ渡伯不可能ナルコトハ豫テ御話シタル通リナルモ今回ノ移民法制定ニ際シ多少ニテモ日本移民ノ入國數ヲ增加セシメラル如キ結果トモナラハ折角發展ノ途上ニアル日伯關係ニ更ニ一層拍車ヲ掛ケルコトトナルヘキヲ以テ新法律決定ノ際我方移民ニ對シ直接タルト間接タルトヲ問ハス差別待遇ヲ爲スカ如キコトナキノミナラス以上ノ趣旨ハ此ノ上トモ御盡力アリ度キ旨述ヘタルニ對シ同大臣ハ之ニ同感ヲ表シタル上出來得ル丈ヶ努力スヘキ旨述ヘタルカ移民入國數緩和方ニ付テハ今後同大臣ノ努力ニ如何程ノ期待ヲ懸ケ得ヘキヤ疑問ト思ハルモ大臣トノ會談要領不取敢

聖市ヘ轉電セリ

管下各領事ヘ暗送セリ

~~~~~

1101 昭和13年2月23日

在ブラジル沢田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

入国割当数の融通案など新移民法の検討状況  
に関するブラジル農相の内話について

リオデジヤネイロ 2月23日後発

本省 2月24日前着

第五四號

4 ブラジル（移民問題）

今回ノ移民法制定ニ際シ幾分ニテモ事態ノ好轉ヲ圖リ度ク  
微力ヲ續ケ居ル次第ナルカ委員會ノ仕事モ豫想通り速ニ進  
捲セサル模様ナルモ各種ノ情報ヲ綜合スルニ今日迄ノ所同  
委員會ニ於テハ「コータ」增加州呼寄移民及十四歳未満者  
ノ「コータ」除外ハ何レモ憲法違反ナリトシテ之ヲ否決シ  
目下ノ所ニテハ大体ノ所(一)各國ニ對スル最低「コータ」ヲ  
三千トシ(二)「コータ」ヲ満タシ得サル諸國ノ「コータ」殘  
數ヲ各大陸別ニ融通セントスル意見ニ傾キ居ルヤニ見受ケ  
ラル然ルニ右「コータ」融通案ハ先般本使農務大臣ト會談  
ノ際同大臣ノ特ニ強ク主張シ居リタルモノニシテ其ノ際同  
大臣ハ當方ノ質問ニ對シ之ヲ大陸別トスルコトハ絕對ニ之  
ヲ避ケル積リナル旨明言シ居リタルカ移民問題ニ付過般來  
關係大臣等ト往復ノ儀新聞其ノ他ニテ弗々疇立チ居ルニ付  
去ル十九日本使代理トシテ小峰ヲ農相ノ許ニ派シ委員會ノ

意見果シテ上記ノ如シトセハ此ノ際「コータ」最低五千位  
ニ増加シ融通ヲ大陸別トスルコトハ絕對ニ之ヲ避ケラルル  
様大統領ニモ話込ミ精々盡力アリ度キ旨依頼セシメタル處  
同大臣ハ三千ニセヨ五千ニセヨ最低「コータ」設定ハ妙案  
ト思ヘス自分トシテハ過日大使ヘ内話ノ通り依然「コータ」  
融通案カ最良ノモノト考ヘ居ル處委員會ニ於テハ之ヲ大陸  
別トセントスル意見強キ由聞込ミ之ハ面白カラサル傾向ト  
認メタルヲ以テ早速大統領ニモ話シタル處大統領モ差別待  
遇ニハ反対ニテ大陸別融通案モ面白カラスト認メラル様  
子ナリシニ付委員會答申如何ニ關セス結局ノ處無條件融通  
案ヲ採擇セラルル様進言シ置ケリト語リタル趣ナリ  
農務大臣ハ元來日本移民ニ對シ眞摯ナル好感ヲ有シ居リ從  
テ其ノ所說何時モ當方ニ具合好ク其ノ好意ハ常ニ多トシ居  
ルモ果シテ萬事同大臣ノ意見通り決定ヲ見得ヘキヤ安心出  
來難キ廉モアリ殊ニ委員會ニ於テハ相當深刻ナル日本移民  
排斥議論モ重ネラレ居ル由又新聞モ當方ノ指金ニ依ルモノ  
ハ別トシ其ノ他ノモノハ其後モ引續キ日本移民反対ノ諸說  
ヲ執拗ニ繰返シ居リ本件果シテ如何ナル決定ヲ見ルヘキヤ  
豫斷ヲ許ササルモ右不敢將又上記農相ヘ申入ノ儀ハ天城

ヨリ「サルガード」へ、宮腰ヨリ「ダーネ」ニ懇々内話は等兩人ヨリモ篤ト大統領ニ吹込方依頼セシメ置ケリ  
管下各領事ヘ暗送セリ

1102 昭和13年2月25日

在ブラジル広田外務大臣より  
在ブラジル沢田大使宛(電報)

南米航路維持や日伯貿易進展の觀点から移民  
法案への善処を<sup>ラジル要路へ要請方訓令</sup>

本省 2月25日前11時10分発

第二三號

貴電第四八號ニ關シ

新法案ノ骨子カ其儘採擇セラルト假定セハ爾今我對伯移民  
ハ三千五百餘ニ限定セラルト了解セラルル處相當數ノ移民  
ヲ間斷ナク渡伯セシムルコトカ商船南米航路維持ノ必須條  
件タルハ御承知ノ通ニシテ殊ニ商船ニ於テハ南米航路ノ爲

第六五號

往電第六四號ニ關シ

リオデジヤネイロ 3月5日後發

本省 3月6日前着

日本人移民の入國割當数増加に<sup>及力方ブ</sup>  
ラジル外相へ要請について

1103 昭和13年3月5日

在ブラジル広田外務大臣より  
在ブラジル沢田大使宛(電報)

ル伯國ニ執り極メテ不利ナル次第ナルニ付テハ往電第一五  
號ニモ御留意ノ上右事情ヲ外務大臣、商工勞働大臣等ニ篤  
ト說明相成ルト共ニ御裁量ニ依リ過去數年來對日貿易進展  
ノ爲特ニ力瘤ヲ入レ來タレル「ヴァルガス」大統領ニモ可  
然申入レ大局的見地ヨリ善處方御懇談相成度

ナラス商品ノ極東市場搬出ニ關シ我商船ニノミ倚存シ居レ

セラルルコト察シ居ル旨述ヘタルニ付本使ヨリ往電第四

#### 4 ブラジル（移民問題）

○號會談ノ際差別待遇ハ設ケサルコト、日本移民ニ關スル限り多少ノ改善ヲ見ルカ少クトモ現狀ニ比シ改惡セラルルコトナカルヘシトノ御言明アリタルカ其ノ後移民委員會審査ノ模様ニ付新聞紙等ニ現ハレタル情報ヲ綜合考察スルニ新法案ハ各國ニ對シ三千人ノ最低「コーター」ヲ設定シ日本移民ニ付テハ入國數ヲ大體三千五百見當ト決定スルニアラスヤト見ラレ右ハ恐ラク十四歳未満「コーター」除外否認ノ結果カト察セラルル處一九三四年度以來入國セル日本移民ノ數ハ毎年遙ニ三千五百ヲ超工居ル現狀ナルニ拘ラス（數字ヲ掲ヶ説明）今回十四歳未満ヲモ含メ三千五百見當ニ決セラルルコトトナラハ右ハ正ニ事態改惡ト言フヘク兩國親善關係ノ大局ヨリ見ルモ將又折角發展ノ途上ニアル日伯通商ノ見地ヨリスルモ遺憾至極ノコトナリトテ貴電第二二號御來示ノ趣旨詳細數衍説明シ此ノ際何トカシテ從來以上ニ日本移民入國數ノ増加ヲ計リ得ハ右ハ伯國ノ對極東方面貿易ヲ促進シ伯國ヲ利スルコト鮮カラサルノミナラス我方ニ於テハ之ヲ以テ伯國ノ對日友情ノ表示トシテ從來誠意繼續シ來レル對伯親善工作ニ更ニ一層ノ拍車ヲ掛ケル様ニモナリ兩國國益增進ノコトトモナルヘキニ付此ノ際我移民入

國增加ノ爲此ノ上トモ折角努力アリ度キ旨懇々申入レタルニ大臣ハ御説明ノ次第篤ト了承法案其ノモノハ未タ充分検閲シ居ラサルモ係官ノ説明ニ依ルモ日本ニ關スル限り自分カ前回貴大使ニ申上ケタルト同様ニシテ他方新法律制定後恐ラク之カ施行細目ヲ設クルコトト察セラルルニ付其ノ際新法不充分ノ點ハ多少共補充セラレ得ルナラント答ヘタリ依テ本使ヨリ「コーター」融通案ニ言及シ同案ハ委員會ノ慎重考慮ヲ迎ヘタルモノナリトノ聞込モアリ此ノ際同案ニテモ採擇アラハ右ハ幾分ニテモ我方希望ヲ満タシ得ルコトナルヘシト述ヘタルニ正ニ其ノ通りナリト答ヘタルニ付此ノ際同案ヲ新法案ニ織込ム様特ニ御盡力願度ク尙前記本使縷述ノ次第ハ大統領ニモ詳細傳ヘラレ何トカシテ此ノ際日本移民入國增加ヲ期シ得ル様重ネテ努力アリ度キ旨懇請セルニ同大臣ハ來ル八日大統領ト會見ノ豫定ニ付其ノ際御來示ノ次第篤ト傳達深甚ナル考慮ヲ促スコトト致スヘシト述ヘタリ

管下各領事へ暗送セリ



昭和13年3月9日 在  
ラジル沢田大使より  
広田外務大臣宛電報)

**ブラジル大統領に対し新移民法案における  
本人移民の入国割当数増加を要請について**

リオデジャネイロ 3月9日後発  
本省 3月10日前着

往電第六五號ニ關シ  
第六七號

其ノ後勞働、農務兩大臣ニ對シテモ冒頭往電外務大臣へ申入ト同様ノ申込ヲ爲シ右大統領ヘモ傳達ノ上此ノ際何トカシテ日本移民ノ入國增加方盡力アリ度キ旨懇々依頼セルニ對シ兩大臣共出來得ル丈ケ努力スヘキ旨答ヘ居リタルカ昨日八日「ペトロボリス」ニ於テ大統領ニ直接面談ノ機會ヲ得タルヲ以テ近年日伯貿易發展ノ狀況ヨリ說キ起シ貴電第二二號御訓令ノ次第竝ニ昨年末以來山下、川崎兩汽船會社當方面へ進出ノ狀況竝ニ伯國物資ノ日本竝ニ極東方面ヘノ輸送ハ全ク是等日本船舶ニ於テ之ヲ擔當シ居ル事情等詳細説明ノ上移民委員會作成法案ニ依レハ日本移民割當ヲ三千五百見當ニ限定セントスルモノノ如ク新聞紙等ニ報セラレタ

ル處果シテ然ラハ右ハ一九三四年以來ノ入國數ニ比シ遙ニ少數トナリ遺憾ニ存スル處之ニ反シ今回新移民法ニ依リ日本移民入國數增加ヲ見ルコトトナラハ日本船舶ノ伯國寄港數モ自然增加スルナラント察セラレ其ノ結果伯國ノ對極東方面輸出貿易ヲ一層促進スルコトトモナルヘシトテ通商移民問題ノ相關性ヲ說キタル上此ノ際日本移民入國ノ增加ヲ計ラレ得タリトセハ右ハ伯國ノ對日友情心表現トシテ日本ヲシテ今後益々對伯親善工作ヲ進メシムルコトトナルヘク以上ノ次第ハ既ニ外務、商工大臣等ヘハ話シ置ケルニ付適宜其ノ説明ヲモ徵セラレ是等ノ點充分御考慮ノ上新移民法制定ニ際シ幾分ニテモ從來以上ニ日本移民入國增加ヲ圖ラルル様御配慮アリ度キ旨縷々述ヘタルニ對シ大統領ハ日伯關係ハ單ニ傳來ノ友情關係ノミナラス近年通商方面ニ於テ格別ノ發展ヲ示シ來レルコトハ自分モ密ニ喜ヒ居ル所ニシテ今後單ニ此ノ關係ヲ痛ムルカ如キコトナキノミナラス却テ益々其ノ發展ヲ圖ラサルヘカラスト考ヘ居ルニ付御説明ノ次第ハ特ニ興味ヲ以テ承リタルカ移民法案ハ數日前自分ノ手許ニ提出サレタル許リニテ未タ充分之ヲ検討スルノ餘裕ヲ得サルヲ以テ今日細目ニ亘リ御話スル準備ナキモ何レ

ニセヨ同法制定ニ當リ日本ニ對シ他國トノ間ニ差別ヲ設ク  
ルコトハ決シテ之ヲ爲ササルヘキ旨述ヘ其ノ他ノ點ニ言及  
スルヲ避ケル様子ナリシニ付移民法ニ付最後ノ決定ヲ爲サ  
ルル際右當方申入ニ對シテハ特ニ好意的考慮ヲ加フルコト  
ト致サレ度キ旨繰返シ述へ置キタリ

尙大統領ハ本使ノ問ニ對シ新移民法ノ發布ハ多分本月末頃  
ニナルナラント述ヘ居タリ  
管下各領事へ暗送セリ

1105

昭和13年3月22日

在<sup>(1)</sup>ブラジル沢田大使より  
広田外務大臣宛（電報）

**日伯關係進展のため新移民法制定に當たつて  
は日本人移民の入国数増加に配慮方<sup>ブ</sup>ラジル  
新外相へ申入れについて**

リオデジヤネイロ 3月22日後発

本 省 3月23日夜着

第八〇號  
<sup>(1)</sup>昨二十一日外相往訪同氏就任後最初ノ會談ニモアリ旁本使  
着任以來日伯關係進展ノ狀況詳述ノ上通商移民問題ニ付往

電第六七號大統領ヘノ申入レト殆ト同様ノ話ヲ爲シ今後兩  
國親善關係特ニ通商增進ノ爲盡力アリ度ク殊ニ早晚公布ノ  
趣ナル新移民法制定ニ當ツテハ政治家<sup>的</sup>見地ヨリ日本移民  
ノ入國數ヲ從前ヨリ增加方配慮アリ度キ旨述ヘタル處同大  
臣ハ（一）貴大使モ既ニ御熟知ノ通り大統領ハ日伯關係進展ニ  
付テハ特別ノ關心ヲ有シ今後益々其ノ發達ヲ期シ居ル次第  
ニテ自分トシテモ貴大使御赴任ノ途次華盛頓ニ於テ縷々申  
述ヘタル如ク豫テヨリ右大統領ノ政策ニハ全然共鳴今後益  
々強化ヲ圖リ度キ積リニテ相互トモ隔意ナク協力スルコト  
ニ致度ク（二）自分ハ就任日猶淺ク未夕移民法案查閱ノ餘裕ヲ  
得ス詳細ノコトハ申上ケ兼マルモ兩國通商及移民問題ニ付  
過日貴大使ヨリ大統領ヘ御申入レノ次第ハ既ニ大統領ヨリ  
モ伺ヒ居リ出來得ル限り考慮ヲ拂ヒ度シト存シ居ル次第ナ  
ルカ御承知ノ通り伯國ハ何ント申スモ若キ國ニテ萬事未タ  
整備セススカル國柄トシテ有力ナル國ノ國民渡來ニ付テハ  
一種ノ恐怖心ヲ有シ日本ニ對シテモ其ノ偉大性ニ對シテハ  
敬意ヲ表シ居ルモ近年滿洲及支那本部へ進出ノ實情ニ照シ  
同様何等カノ恐怖心ヲ持ツ者アリ云々ト述ヘタルニ付本官  
ヨリ言ヲ遮り日本ノ對伯帝國主義的意圖云々ハ何等根據ナ

キ謬説ニ過キサル旨説明シタルニ同大臣ハ無論自分ノ如キ  
ハスカル議論ニ迷ハサレ居ルモノニアラサルノミナラス  
其<sup>(2)</sup>ノ杞憂ナルコト隨時説明シ居ルモ世間ニハ依然異常ノ恐  
怖心ヲ棄テサル者モアリ旁移民法案審議ニ際シテモ歐洲移  
民入國ニ對シ特ニ之ヲ優遇セントスル議論高カリシ由ナル  
モ大統領ハ勿論自分トシテモ日本ニ對シ差別待遇ヲ爲スカ  
如キコトハ有之ヘカラスト爲シ居ル次第ニシテ日伯關係ヲ  
害フ如キ處置ハ執ラサル積リナリ而シテ通商發展ハ伯國ノ  
國是ニモアリ日伯通商近來ノ進歩ハ密ニ欣ヒ居ル所ニ付今  
後益々其ノ進歩ヲ計リ度ク此ノ點ニ付テモ貴大使ノ協力希  
望ニ堪工ス云々ト述ヘ居リタリ序ヲ以テ本使ヨリ同大臣ノ  
鄉里タル「リオ・グランデ・ド・スール」州ト日本トノ關  
係最近漸次緊密トナリ同州ニ於ケル親日空氣醞釀ノ次第ハ  
内々欣快ニ存シ居ルニ付此ノ關係ノ益々伸展ヲ計リ度ク尙  
日本當業者ノ話ニ依レハ今後方法宜シキヲ得ハ日本及東洋  
ニ於ケル伯國珈琲販路擴張見込相當アルニアラスヤトノコ  
トニモアリ日本船舶ノ伯國來航度數增加シ來レル今日兩國  
關係者ニ於テ銳意努力セハ兩國通商今後尙發展ノ見込鮮力  
ラスト信シ居ル旨事例ヲ舉ケ詳説シタルニ同大臣ハ是等ノ

點ニ對シ特別ノ興味ヲ示シ殊ニ珈琲問題等何等對案浮ヒ出  
タル節ハ更ニ協議ニ與リ度キ旨述ヘタルニ付是等問題ノ發  
展モ要スルニ兩國民相互友情ノ涵養ヲ根本義トスル處差當  
リ移民問題ノ好轉ハ之ニ資スル所鮮カラサルヘキニ付何分  
共格別配慮アリ度キ旨要請シ置ケリ  
管下各領事ヘ暗送セリ

1106

昭和13年4月19日 在ブラジル沢田大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

在伯外国人政治運動禁止令の制定について

別電 昭和十三年四月十九日発在ブラジル沢田大使

より廣田外務大臣宛第一〇八号

右禁止令の要点

リオデジャネイロ 4月19日後発

本省 4月20日夜着

第一〇七號

最近當國ニ於テ「ナチズム」及「ファンズム」宣傳排擊ノ  
趣旨ヲ以テ獨伊等關係團體及學校ニ對シ取締ヲ嚴ニシ居ル  
コトハ既報ノ通りナルカ右ニ關聯シ今般政府ハ要點別電ノ

如キ在伯外國人ノ政治運動禁止令ヲ制定シ十九日ヨリ實施スル旨報セラル右不取敢  
本電別電ト共ニ管下各領事ヘ轉電セリ

### (別電)

リオデジヤネイロ 4月19日後発

本 省 4月21日前着

第一〇八號

(一) 在伯外國人ハ伯國內ニ於テ一切ノ政治運動ヲ爲シ又直接

間接タルヲ問ハス伯國ノ内政ニ容喙スルコトヲ得ス

(二) 在伯外國人ハ政治的性質ヲ有シ又ハ同國人間ニ母國ノ政

策、政治「イデオロギー」ノ宣傳ヲ爲スコトヲ目的トス

ル團體、協會、俱樂部等ヲ設定又ハ維持スルコトヲ禁ス

但シ本規定ニ依リ閉鎖セラルヘキモノニ對シ三十日ノ猶

豫期間ヲ與フ

(三) 在伯外國人ハ政治的宣傳ノ爲新聞雜誌其ノ他刊行物ヲ發

行シ又ハ意見談、講演、「ラヂオ」放送等ヲ爲スヲ得ス

(四) 文化宣傳及慈善ヲ目的トスル外國人團體ノ活動ハ差支ナ

キモ如何ナル形式ヲ以テスルモ外國政府及伯國以外ノ諸

國ニ於ケル團體竝二個人ノ補助金ヲ受クルコトヲ得ス又  
伯國人（歸化伯國人ヲ含ム）ハ是等團體ニ加入スルコトヲ  
得ス

(五) (三)ノ禁止條項ハ目的及國籍ノ如何ヲ問ハス學校其ノ他教  
育施設ニモ之ヲ適用ス

1107

昭和13年4月22日 広田外務大臣より  
在ブラジル沢田大使宛(電報)

### 外国人政治運動禁止令の邦人諸団体への波及 防止につき意見回示方訓令

本 省 4月22日後3時30分発

第四八號

貴電第一〇八號ニ關シ

伯中央協會、日伯經濟協會等ノ事業ニモ不尠差支ヲ來スヘ

シト認メラル處此等諸施設ハ何等政治的宣傳ヲ爲スモノ

ニ非ストノ建前ヨリ出來得ル限り本令ト關係ナキ様致シ度

ク右趣旨ニテ此上共御工作相成度尙若シ先方ニ於テ右ニ不

拘本令ヲ楯ニ前記學校團體等ニ干渉シ來ル模様アルニ於テ

ハ之力對策(例へハ組織變更補助金下附手續ノ改正)等ニ付  
御心附キノ點御回電相成度

聖ニ轉電アリタシ

1108

昭和13年4月27日

在〔ラジル沢田大使より  
広田外務大臣宛電報〕

### 外国人政治運動禁止令に対する枢軸國側の動 きおよびわが方対策について

リオデジヤネイロ 4月27日後発

本 省 4月29日前着

第一一二號

貴電第四八號ニ關シ(在伯外國人ノ政治運動禁止ノ件)

(一) 本法々令ハ當國ニ於ケル外國人ノ政治的活動殊ニ「ナチス」運動抑制ヲ以テ其ノ主タル目的トスルモノト見ラル

獨逸側ハ「ナチス」宣傳ニ關シ伯國當局ト再々折衝ヲ重ネタルニ拘ラス遂ニ所期ノ效果ヲ擧ケ得サリシモノノ如ク獨逸參事官ハ天城ニ對シ獨逸側ハ本法令ノ規定通り當國ニ於ケル「ナチス」運動全廢ノ意嚮ニテ又閉鎖セラレ

タル南伯諸州ノ獨逸學校ニ付テハ何分ニモ目下ノ空氣頗

ル險惡ニテ暫ク事態ヲ見送リ形勢緩和ヲ待チ何トカ善處ノ積ナリト語レル由伊國側モ亦本法令ニ從ヒ今後ハ黒シ各種伊國團體ノ活動ヲ繼續セシメ度キ意嚮ニテ學校ニ對スル伊國政府ノ補助金ニ付テハ何トカ「カムフラージ」ノ方法ヲ考慮シ居ル様子ナリ

(二) 而シテ我方關係ノ各種團體ハ何レモ政治活動ヲ爲シ居ルモノナク從テ我方ノ關スル限り主トシテ問題トナルハ補助金ノ點ナルカ之ニ付テモ伯國當局カ果シテ本法令ヲ文字通り勵行ノ積リナルヤ突止メ度キモ當方ヨリ公然之力説明ヲ求ムル時ハ伯國當局ニ對シ我方團體中政治活動ヲ爲スモノアルトカ又ハ本邦ヨリ補助金ヲ受ケ居ルナリトノ疑惑ヲ抱カシムルコトトナリ藪蛇ノ危險ナキニアラス依テ當方トシテハ本法令公布以來關係各方面ヲ迫リ夫レトナク間接探査ヲ續ケ居ル處今日迄入手ノ情報ニ依ルニ伯國當局トシテ外國人ノ政治活動ニ付テハ飽迄本法勵行ノ意嚮ナルモ其ノ他ノモノニ付テハ速急强行手段ニ出テントシ居ルモノニアラサルモノノ如ク認メラル

(三) 以上情報假ニ正確ヲ得居ルトスルモ既ニ本法令公布ノ今

日中央ハ勿論地方ニ於テモ今後形勢ノ推移如何ニ依リ當局ノ氣持一ツニテ何時タリトモ本法勵行ノ危險アル次第

ニ付我方關係團體ニ於テハ此ノ際定款ニ必要ノ改訂ヲ加

ヘ補助金ノ出所ニ付具合好ク「カムフラージ」ノ方法ヲ

決定シ置ク必要アリ依テ當地關係團體ハ勿論聖州關係ノ

向ニ對シテモ目下具體案折角研究ヲ進メサセ居レリ日伯

中央協會當地支部ノ「パンフレット」發行及「ラヂオ」

放送ハ政治活動ノ一種ト見ラル惧アリ旁々差當リ之ヲ

差止メ置ケリ

四將又本法令ニ依レハ文化團體、學校、病院等モ内務省ノ

許可ヲ要スルコトナリ居ル處目下ノ所本法ニ基ク許可

申請中ノモノハ當地獨逸病院ノミニテ伊、米側等未タ何

等手續ヲ爲シ居ラサルヤノ聞込モアリ旁々我方トシテモ

内々前記(三)ノ處置ヲ急速進ムルト共ニ外部ニ關スル限り

今暫ク形勢觀望ノコトシ伯國側本法施行振ニ付テハ今

後共探査ヲ續ケ形勢ノ推移ニ應シ臨機處置ノ積リナリ

聖市ヘ轉電シ管下各領事へ暗送セリ

1109 昭和13年5月6日

在ブラジル沢田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### ブラジル新移民法に大統領署名について

リオデジヤネイロ 5月6日後発

本省 5月7日前着

第一二三號

昨五日大統領新移民法ノ署名ヲ了シタル由同法主要條項ト  
シテ六日各新聞所報別電第一二三號ノ通り

尙同法成文未タ發表ナキモ諜報ニ依レハ移民割當ハ一八八年  
四年ヨリ一九三四年ニ至ル期間ニ定着セル當該國人總數ノ  
二分トシ割當數ニ滿タサル國ノ「コータ」殘餘ハ之ヲ移民  
送出可能ナル他國ニ融通スルコトナリ居ル趣成文入手ノ

上追テ確報スヘキモ右不取敢尙犯罪人引渡令及外國人追放  
令客月二十七日及二十八日夫々公布セラル右何レモ郵報ス

別電ト共ニ管下各館ヘ轉電セリ

1110 昭和13年6月16日 在ブラジル沢田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### ブラジル新移民法に關し入国割当數融通問題

## をわが方に有利に導く工作など対応振り請訓

リオデジヤネイロ 6月16日後發

本省 6月17日夜着

### 第一六一號

一、新移民法運用方ニ付テハ其ノ後モ關係各方面ノ意嚮問題

シ居ル處結局細則ノ公布竝ニ移民審議會ノ構成ヲ見タル

上ナラテハ充分ナル見透付ケ難キモ同法ニ依レハ入國移

民ノ八割ハ農業者タルヲ要シ且是等農業者ハ入國後四箇

年間同一職業ニ從事セサルヘカラス依テ勞力補給ヲ歐洲

ニ仰カントスル思潮ニ拘ラス歐洲移民入國實績竝ニ最近

歐洲一般情勢ニ鑑ミ歐洲諸國ヨリ右移民法規定條件ノ下

ニ果シテ多數移民ヲ送出シ得ヘキヤ疑ナキ能ハス殊ニ最

近伯國ノ國粹主義政策益々顯著ニシテ斯ル情勢ノ續ク限

リ獨逸、波蘭ハ勿論其ノ他諸國モ對伯移民送出方躊躇ス

ルニアラスヤトモ見ラレ現ニ勞働省係官モ海興代表ニ對

シ新移民法融通條項ヲ利用シ得ルモノハ結局日本ノミナ

ラント語リ居リタル由又農務大臣、「バラナ」執政官等出

來得ル丈ヶ速ニ同條項利用勞力ノ補給ヲ圖リ度キ様述ヘ

居リ旁今後時勢ノ推移如何ニ依ルヘキハ勿論ナルモ我方

工作宜シキヲ得ハ融通問題ハ我方ニ有利ニ導キ得ルニアラスヤト思考セラル而シテ右工作トシテ(一)今後益々一般對日感情ノ好轉ヲ期スヘキコト勿論ニシテ之カ爲ニハ從來ノ啓發工作ヲ一層強化シ(二)中央ニ於テハ移民審議會成立ノ上ハ速ニ之ト聯絡ヲ開始スルト共ニ關係各省トモ絶エス密接ナル接觸ヲ保チ他方各州ニ於テハ州官憲ハ勿論關係有力者ニ渡リヲ付ケ彼等ヲシテ隨時移民審議會ヲ動カサシムル様仕向ケ以テ中央、地方兩方面ノ情勢ヲ我方ニ有利ニ展開セシムルコト肝要ニシテ當館ハ勿論各館共ニ今後一層努力ヲ爲ス外民間關係團體ノ外交陣ヲ強化セシメ夫々協力善處スルコト致度シ因ニ本邦ニ於テハ滿洲、支那經營ニ伴ヒ對伯移民ノ募集相當困難トナリ居ル様傳聞シ居ル處今後工作參考ノ爲對伯移民可能ノ限度大體ノ御見込當方含迄ニ御通報願度シ

二、集團條項ニ付テハ其ノ後接觸セル關係當局何レモ往電第

一三一號内相官房長ト大同小異ノコトヲ申述ヘ居ル處實際問題トシテハ細則公布移民審議會成立ノ上ナラテハ確言シ得サルヘキモ本邦側關係者ノ意嚮ニ依ルモ假ニ前記中央當局ノ意嚮ニ拘ラス現地ニ於テ萬々一法規ノ嚴重勵

行セントスルコトアリトルモ何トカ方法ナキニアラサルカ如ク現ニ集團條項ノ適用ニ直接重大關係アル日南ノ宮坂モ所謂植民地ノ地域ヲ多少狹隘ナラサル地域ノ儀ト解シ且日系第二世ヲ伯刺西爾人ト見得ル限り「バストス」ノ如キ既成植民地ニ付テハ略々現在ノ儘ニテ進ミ得ヘキヤニ認メラレ「アリアンサ」及「チエテ」ノ如キ未完成植民地ニ付テハ及フ限り法規ニ適應スル様形式ヲ整ヘ引續キ一層外人混植ヲ促進スヘキモ差當リノ處實際問題トシテハ主トシテ日本人ノ入植ヲ見ルコトトナルヘキカ何レニシテモ將來現地官憲トノ聯絡ヲ密ニシ實際ノ事態ニ即スル様當局ノ理解ヲ求メツツ事端ヲ惹起セサル様取計ヒ得ルナラント語リ居レリ

三<sup>(3)</sup>教育條項ニ付テハ聖市總領事發貴大臣宛電報第七〇號ノ通り教育局長ハ地方駐在官ニ對シ指令ヲ發シ同條項ノ實施ニ手ヲ染メ出シ又同州内奥地ニ於テハ地方官憲ニ於テ邦人小學校ニ對シ同條項ノ實施ヲ迫リ居ル地方モアル模様アリトノコト故今後地方ニ依リテハ我方學校ノ閉鎖セラルコトモ起リ得ヘク延イテ邦人教師ノ失職問題ヲ生シ又農村ニ於テハ日本語教授ヲ斷念セサルヲ得サルカ如

キ事態トナルコトナキヲ保セスト存スルモ目下是等學校ハ冬休中ナルヲ以テ各地方官憲ノ學校ニ對スル態度未タ充分判明セサル點モアリ又聖州當局ノ方針モ移民法施行細則發布前ニモアリ充分突止メ難キ事情アル由ニモ之アリ旁全面的情勢ノ考察ニ付テハ其ノ内適當ノ機會ヲ見計ヒ關係領事ヲ當地ニ召集地方ノ事情ヲ聽取スルト共ニ種々協議ノ上必要ニ應シ更ニ何分ノ儀具申スルコトアルヘキモ差當リノ所我方トシテハ關係ノ向ニ於テ伯國當局ニ對シ學校ノ建設及教師ノ派遣ヲ迫ルト共ニ或期間教育條項ノ勵行ニ手心ヲ加フル様慾漣シ出來得ヘクハ必要ノ過渡的措置ヲ認メシムル様努力スル一方愈教育局指令文字通り勵行ノ場合ニハ出來得ル限り漸次兒童ノ都市就學ノ途ヲ講シ小學舍ヲ一層建設利用セシメ各地方ノ事情ニ依リ學校ニ於ケル日本語教授ハ口頭教授法ヲ用ヒ又各家庭ヲ基礎トスル巡回教授法ニ據ラシムルコトトシ更ニ進シテ中等教育及各種社會教育ニ於テ日本語及日本精神教育ノ補充ヲ爲サシムル等ノ方法ニ依リ然ルヘク取扱フノ外ナカルヘク右ハ各地方ノ實情ト事態ノ推移ニ順應種々手加減ヲ加フヘキ要アルモ差當リ大體上記ノ方法ニ依リ臨

機善處スルコトト致度シ  
管下各領事へ暗送セリ

~~~~~

珈琲ノ輸入ニ付テハ時局柄我方トシテ制限ヲ強化スルコ
トアルヘキニ付珈琲輸入ノ點ニハ觸レサルコトト致度ク
右貴大使御含ミ迄)

1111 昭和13年6月23日 宇垣外務大臣より
在ブラジル沢田大使宛(電報)

「**ブラジル新移民法対策に関する拓務省などと**

の打合せ結果について

本省 6月23日後7時発

第八三號

ルカ

一、關係者一同融通條項ノ發動ヲ切望シ居ルモ移民業者等ニ
於テ露骨ナル工作ニ出スルハ却而不利ナル情勢ヲ來スヘ
キニ付慎重措置方ノ要アルヘク且關係者ノ現地工作ニ付
テハ萬事ニ付貴大使初メ出先公館ノ指揮ヲ受クヘキコト
二、商船及日伯棉花邊リヨリ日伯商業會議所ヲ通シ經濟審議
會方面ニ對シ日伯通商ノ發展ト移民ノ送出トハ不可分ノ
關係ニ在ルコトヲ説明シ以テ(一)ノ工作ニ資スル事適當ナ
ルヘク右措置ニ付テハ追而貴方ト打合スコト(但シ伯國

三、伯國出先領事ノ權限擴大セラルルコトトナリタルニ付テ
ハ内地關係者ニ於テ一層伯國大使館及領事トノ聯絡ヲ密
接トスルコトニ心掛クヘキコト
等ヲ申合セタルカ此ノ外内地ニ於テ特ニ手配方希望ノ點ア
ラハ隨時申出テラレ度其他參考事項及貴電第一六一號ノ一
ノ後段移民送出限度ニ關スル見解追報ス
「サンパウロ」ニ暗送アリタシ

1112 昭和13年7月8日 宇垣外務大臣より
在ブラジル沢田大使宛

「**ブラジル移民の渡航見込數について**

付記 外務省原案「渡伯移民見込數」

米二機密第五〇號

昭和拾參年七月八日

外務大臣 宇垣 一成

在伯國

特命全權大使 澤田 節藏殿

渡伯移民見込數ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ客月中旬御電照ノ趣了承依而左記ノ通回報申進ス尙對滿移民ニ關スル資料御參考迄一括併セテ送付ス追而別添「渡伯移民見込數」ハ在「サンパウロ」總領事ニモ送付致置キタルニ付爲念申添フ

編注 本公信は別添が見当たらず、回報内容は不明であるが、

別添「渡伯移民見込數」の外務省原案を本文書付記と

して採録。

(付記)

渡伯移民見込數

4 ブラジル (移民問題)

(欄外記入)
(一) 本邦ハ目下五年計劃ヲ以テ満洲國行移民十萬戸送出ヲ目標トシ本年一萬五千戸來年二萬一千戸ヲ豫定シ居ルカスル大量ノ移住者送出カ他地方行移民募集ニ直接間接ノ影

本邦カ送致シ得ル伯國向ケ移民數ノ限度ハ諸種ノ理由ニ依リ左右セラルルヲ以テ一概ニ之ヲ決定スル能ハサルモ大體以下ニ依リ御了承相成度

(二) 但シ目下國策トシテ満洲行移民ヲ勧奨シツツアルニ際シ内地各地方ニ於テハ満洲移住熱高キ反面ニ於テ南米移住熱力相當冷却シ居ルハ爭ヒ得サル事實ナリ諸地方ノ移民募集人中ニモ之力爲募集困難ヲ訴ヘ來ル者少ナカラス又中ニハ政府ノ方針カ満洲移民獎勵ニ在ル半面南米移民ハ寧口之ヲ防止セントスル意図ナリト解釋スル者アリ依而外務拓務當局トシテハ斯ル見解ハ誤解ニテ政府ハ目下ノ時局又ハ満洲移民獎勵ノ理由ヲ以テ南米向移民ニ對シ特ニ從來ノ方針ヲ變更スルモノニ非ルコトヲ機會ニ應シ説明ヲ與ヘ居リ就中拓務大臣ハ去ル^(マニ)月開催ノ地方長官會

議二於テ地方當局ニ於テモ此ノ點ニ付誤解ヲ生スルコト

(見当ラズ)

ナキ様別添附屬ノ如キ指示ヲ爲シタリ

尤モ實際問題トシテ滿洲移民ハ對伯移民ニ比シ數モ多ク

ソノ意義モ相異スルコトナレハ政府當局トシテモ對伯移

民募集ニ對シ滿洲行移民募集ト全然同様ノ措置ヲトリ得

ス後者ニ付テハ第二段ノ問題トシテ處置スルコトアルハ

當然ノ次第ナリ

(三)ノ點ニ關聯シ伯國ニ於テ何等カノ形式ニ於テ國策トシ

テ或ハ之ニ類スル理由ノ下ニ日本移民ノ招致ヲ希望スル

趣旨ノ表示アルニ於テハ内地當局トシテモ例ヘハ豫算ノ

要求地方當局ノ協力程度等ニ關シ多大ノ便宜アリ惹イテ

ハ募集上モ好結果ヲ來スヘシ反之伯國側ニ於テ免角日本

移民壓迫ノ態度ニ出スルコトアルニ於テハ當局トシテ募

集上及送出上困難アル事ハ勿論ナリ且又移住者ノ多數ハ

渡伯後ノ子弟教育ニ付多大ノ關心ヲ有シ居ル處從來伯國

ニ於テハ邦人學校アリ内地ニ於ケルト左迄相違ナキ教育

ヲ與ヘ得ルモノトシテ此ノ點ニ付安心シ居リタル次第ナ

ルカ現在ノ如ク邦人學校ニ對スル壓迫アル場合右ハ勢ヒ

募集ニ影響ヲ及ホスヘシ集團問題ニ付テモ略々之ト同様

ナリ

(四)大量ノ渡伯移住可能ナル際ニ於テハ移住民送出地方ニ於

テ伯國熱高マリ從而數ノミナラス質ニ於テモ良質ノ者ヲ

集メ得ニ反シ二三千程度シカ送致シ得サル場合ハ反對

ノ結果ヲ來シ勝チナリ(三空分アキ)

號往信參照

(五)移民送出ノ技術上ノ點ヨリ見レハ許可ノ概數ヲ可成早目

ニ承知スルコト好都合ナリ即チ渡航補助金ハ豫メ豫算ニ

計上スルノ要アリ(根據ナキ數字ヲ漠然計上シ要求スル

モ大藏省ノ査定ヲ得ルコト能ハス)又内地ニ於ケル募集

ニ對シテモソノ身許、健康狀態等ヲ調查シ之ニ合格シタ

ル希望者カ渡航準備ヲ完了シ各船ニ割當テ乗込ミヲ了ス

ル迄ニハ對伯關係上ノ手續ヲ別問題トスルモ相當ノ時日

ヲ要ス依而例者下半期ニ至リ急ニ數千人ノ「コータ」外

許可アリトスルモ之ヲ年内ニ渡伯セシムルコト頗ル困難

ナリ

(六)以上ノ通り我方對伯移民送出ノ限度ハ事情ニ依リ頗ル伸

縮性ニ富ムヲ以テ茲ニ幾許ト決定スルコト不可能ナルカ

本年度ハ既ニ半ヲ經過セル事ニモアリ幾許ニテモ「コー

タ」融通ノ途ヲ開キ置クコトヲ得レハ滿足ナリト云フヘ

ク來年度ニ於テハ不取敢六千名見當ヲ目標トシテ御工作

願ヒ度シ（此ノ點貴官限リノ御含ミ迄）尤モ先方ニ於テ若

シ其以上ノ數ヲ希望スルコトアリトセハ一萬人位迄ハ何

トカ取計ヒ得ヘキモ前述補助金ノ關係モアルニ付只今ヨ

リ具体的事項ヲ承知シ置クコト必要ナリ

昭和十五年度以後ニ就テハ今後ノ伯國側ノ出方ヲモ考慮

シ更ニ目標ヲ定ムルコトト致シ度シ

尙我方トシテハ融通條項ノ發動ヲ期待スルコト既報ノ通りナルカ同時ニ間歇の且不規則ニ移民ヲ送致スルコトハ各種ノ困難アルニ付可能ナレハ毎年似寄リノ數字或ハ豫メ目算ノツキ得ル數字（例者前年度或ハ當該年度見込ノ「コータ」總殘數ノ何「パーセント」ト云フ程度）ノ融通ヲ比較的長期間ニ亘リ獲得スル様工作致度キ次第ナリ

（欄外記入）

拓務省ト打合以前ノ原案

1113
昭和13年8月30日 在ブラジル沢田大使より
宇垣外務大臣宛（電報）

入国割当数融通問題などブラジル移民法の施 行細則をめぐる諸情報報告

リオデジヤネイロ 8月30日後発
本 省 8月31日前着

第二二三號

一、⁽¹⁾ 移民法公布後同法割當残數融通ト移民條約トノ關係竝ニ

其ノ運用等ニ付農務大臣其ノ他二、三當局ノ意見ヲ徵シ

タルニ融通ハ必スシモ條約ニノミ依ルヲ要セス伯國ノ必

要ニ應シ審議會ノ決定ニ依リ實行シ得ルモノナル旨述へ

居タル處同法文面上ヨリ見テ端的ニ右様取扱ヒ得ルヤ疑

問ナキニアラサル次第ノ處今回公布ノ細則^{〔編註〕}ニ依レハ此ノ

點稍明瞭トナリ前記農務大臣等ノ見解ヲ裏書シ居ルニア

ラスヤト認メラルモ爲念小峰ヲ本件法規ノ元締ヲ爲シ

居ル者ト見ラレ居ル内務次官ノ許ニ派シ問質サシメタル

處同次官ハ割當残數ノ利用ハ審議會及移民條約何レニテ

モ之ヲ爲シ得ルモノナリ割當残數ハ移民條約ノ對象トナルコトハ勿論ナルモ融通ノ實行ハ條約ト離レ單ニ審議會

ニ於テモ之ヲ爲シ得ル次第ナリト語リ居タル趣ナリ

審議會委員ノ顔觸等未定ナルカ當國ノコト故其ノ構成如

何ニ依リテハ果シテ前述ノ通り條約ニ依ラス融通ノ實行ヲ爲スヘキヤ疑問ナキニアラサルモ審議會構成後果シテ右ノ通り實行スルモノトセハ融通條項利用方容易トナル次第ニテ我方對審議會工作益々肝要ナルヲ覺ユ將又細則ニ於テハ從來ノ「カルタ・デ・シャマーク」ノ制度ヲ廢止シ移民ノ選擇、旅券ノ查證等ニ關シ領事ノ權限ヲ鮮力ラス擴大シ居ルニ付本邦ニ於ケル對伯國領事工作ハ從來以上ニ強化方希望ニ堪ヘス

二、⁽²⁾ 移民法集團條項ノ嚴重勵行ハ我方植民地ニ對スル大ナル脅威ト認メ既電ノ通り既存植民地ニ對シテハ現狀ノ攪亂ヲ來サシメサル外同條項適用ニ付充分手加減ヲ加フル様關係當局ノ考慮ヲ求メ來レル處細則ニ於テハ既存植民地ニ關スル内外人入植者割合カ法規ニ合致セサルモノアルニ於テモ現狀ノ儘之ヲ放任スルモノト認メラルニ付此ノ點ニ關スル從來ノ杞憂ハ鮮カラス緩和セラレタルモノト言ヒ得ヘク又人植者ヲ地主數ニ依ラス其ノ頭數ニ依リ算定スル様規定セルヲ以テ今後植民地經營上遣方如何ニ依リテハ融通ノ途ヲ増シタルモノト認メラル

三、施行細則ニ於テハ農村地帶ヲ聯邦及各州首府並ニ移民上

陸港以外ノ一切ノ地域ト規定セルヲ以テ農村學校條項適用範圍ハ移民法ニ依リ豫見シタルヨリ更ニ擴大セラレ此ノ點我方ニ一層不利トナリ居ルモ同細則ニハ「coloniaニ於ケル各種學校ハ生來ノ伯國人之ヲ reger ス」ト規定シタル後「其ノ小學校教師タルカ爲ニハ生來ノ伯國人タルコトヲ立證スルコトヲ要ス」ト特ニ明記シテ「學校ヲ reger スル者」ト「小學校教師」トヲ別々ニ取扱ヒ居ル點ヨリ見テ reger ナル字義ハ校長又ハ管理者ト解釋シ得ルニアラスヤトモ考ヘラル
依テ *colonia* 以外ノ農村學校ニ關スル reger ナル字義モ亦校長又ハ管理者ナリトノ解釋許サルルモノトセハ所謂邦人教師ノ地位ニ付一縷ノ光明ヲ見得ル次第ナルカ移民法並ニ細則ニ於ケル教育條令ノ嚴重勵行ハ從來本件ニ付懸念シ來レルカ如キ事態ヲ一層強化スル惧アリ依テ本電第一項小峰カ内務次官往訪ノ際往電第一九五號等當方重不重ネ申入ノ趣旨ヲ尊重細則ニ拘ラス右申入事項實行出來得ル様御配慮アリ度キ旨申入レシメタルニ對シ同次官ハ細則實行期ハ今後四箇月後ナルヲ以テ日本側ニ於テモ夫レ迄ニ出來得ル限り法規ニ適合スル様措置シ貰ヒ度シト

述ヘタルニ付小峰ヨリ勿論我方ニ於テモ右趣旨ニ依リ最

善ヲ盡スヘキモ斯ル短期間ニ全部工作ノ完成ヲ期スルコ

ト不可能ニ付伯國當局ニ於テモ邦人學童ノ教育中斷ヲ生
セシメサル様措置スルト共ニ前記當方豫テノ申入事項ノ

容認方切望ニ堪ヘスト申入レタル處右ハ大臣トモ協議シ
出來得ル範圍ニ於テ「トレランス」ノ精神ヲ以テ考慮致

スヘシト答ヘ且農村學校ニ對スル reger ノ意味ヲ校長又
ハ管理者ノ義ニ解スレハ日本人側希望ノ點ハ或程度迄充
サルルニアラスヤト思考シ reger ヲ右様解釋スルコトニ
考慮ヲ拂ヒ居ル旨語リタル由ニ付小峰ヨリ此ノ點ハ是非
右様取扱ハレ度キ旨希望シ置キタル趣ナリ
聖市ヘ轉電シ管下各領事ヘ暗送セリ

編　注　移民法施行細則は八月二十二日付で公布された。

~~~~~

1114 昭和13年11月5日 在ブラジル沢田大使より  
（在ブラジル外務大臣宛電報）

　　ブラジルにおける対独警戒と入国割当數融通  
　　条項の対日適用との関連性に關し  
　　ブラジル外

### 相が説明について

リオデジャネイロ　11月5日前發  
本省　11月6日前着

### 第二六三號

　　昨日時餘二亘リ日伯關係諸問題ニ付外務大臣ト懇談ヲ重  
　　ネタルカ其ノ際本使ヨリ融通條項善用明年ヨリ割當外日本  
　　移民入國取計方話合ヒタル處同大臣ハ大統領始メ自分ニ於  
　　テモ日本移民ノ「メリツト」ハ充分之ヲ認メ居リ旁先般移  
　　民法制定ニ際シ各種ノ反對ヲ制シ御承知ノ如キ無差別融通  
　　規定ヲ設ケシムルコトトナリタル次第ニシテ自分トシテハ  
　　出來得ル限り速ニ日本移民ニ對シ同條項適用方希望シ居ル  
　　次第ナルカ過般來獨逸ノ對伯工作餘リニ露骨ニシテ其ノ後  
　　ノ調査ニ依ルモ五月十一日事件ノ背後ニハ獨逸ノ策動アリ  
　　タルコト明白ニシテ伯國トシテハ是等獨逸ノ仕打ハ斷然之  
　　ヲ排撃セサルヘカラサル處今後當局ニ於テ獨逸側カ何等事  
　　端惹起ノ場合ニハ其ノ盟邦タル伊太利日本ノ在伯居留民ノ  
　　援助ヲ期待シ得ル旨言ヒ觸ラシ居ル者モアル由ニテ當國一  
　　部ニ於テハ日本ト獨伊ヲ同一視シ日本ニ對シテモ恐怖ノ念  
　　ヲ増シ居ル向アリ極メテ困ツタコトト思ヒ居ル旨本使内密

ノ含迄トシテ申述ヘタルニ付本使ハ日本ハ共産撲滅ノ爲獨逸ト防共協定ヲ結ヒ居ルコトハ事實ナルモ其ノ外二期待ナ

ク殊ニ我方對伯工作ハ全然獨逸ノ工作ト其ノ選ヲ異ニシ居リ日本(カ)伯刺西爾ニ求ムルモノハ其ノ友情ト經濟協力ニ

外ナラサル旨縷々説明其ノ點ニ關シ何等誤解ヲ抱キ居ル者アラハ然ルヘク啓蒙方取計ハレ度キ旨依頼セル處大臣ハ右ハ自分共トシテハ充分了解シ何等疑惑ヲ抱キ居ラサルモ獨逸側ノ仕打餘リニ理不盡ノ點鮮カラス動モスレハ日本モ其ノ卷添ヲ喰ハサルル危險アル次第ナルカ當國ニ於ケル對獨感情モ其ノ内ニハ改善ヲ見ルナルヘク其ノ際ニハ必ス融通

條項利用時期到來スヘク自分トシテモ之カ爲此ノ上共努力ヲ重ネ出來得ル限り御希望ニ副フ様取計フヘシト答ヘタリ

聖市ニ轉電シ聖市ヲ除ク管下各館南米各公使、米、獨ヘ暗送セリ

### したとの情報について

リオデジャネイロ 12月13日後発  
本省 12月14日前着

#### 第二八六號

一、去ル七日移植民審議會ニ於テ陸軍側委員ヨリノ提案ニ基

キ獨逸、波蘭及日本人ノ對伯活動竝ニ教育問題ヲ繞ル同化問題ニ付論議セラレタル趣ノ處右討議ノ内容ニ關シ同

審議會委員ニテ本邦側ニ好意ヲ有スル「ベテイン、パエステーメ」ノ本官ニ對スル内報及「ブルノ、ロー・ボ」ノ情報ヲ綜合スルニ大要左ノ通り

(イ) 「メイラ、バス、コンセーロス」中將ヲ中心トスル軍部一派ノ極端ナル國粹運動ハ特ニ獨逸、波蘭及日本人排斥運動トナリ居ルカ右ハ參謀本部ニ於テ波蘭カ南米ニ獨立國建設ヲ目論ミ居リ又獨逸カ伯國內ノ革命ヲ策謀援助シ擾亂ニ乘シ南伯獨逸人居住地方ヲ獨立セシメント策シ居ル意味ノ證據書類ヲ入手シ居ルカ爲ニシテ又日本ニ關シテハ伯國軍部ニ於テ日獨兩國間ニハ對伯活動上協力スヘキ約束アル旨ノ情報ヲ入手シ居ル上參謀本部ノ取調ヘタル所ニ依レハ日本將官カ聖州ニ於テ

1115

昭和13年12月13日

在ブラジル天城臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ブラジル軍部が日独およびボーランドへの警

戒心から移植民審議会に移民禁止法案を提出

軍服ヲ着用シ日本人ノ演習ヲ行ヒタリトノ報道アリ日本人ハ伯國ニ對シ政治的意圖ヲ有スルモノト認メラルニ付警戒ヲ要ストノ理由ニ基クモノナリ而シテ軍部内ノ右排外的意嚮ノ具體的結果トシテ移植民審議會二於ケル軍部側委員ヨリ同審議會ニ對シ外國人ノ同化問題ニ關スル廣汎ナル法律案提出セラレタルカ同案中ニハ獨逸、波蘭及日本移民ノ入國ヲ禁止スヘキ旨ノ條項アリ尤モ同案審議會ニ提出ニ先立チ同案ニ付參謀本部ヲ中心トスル軍部上層部ニ於テ討議セラレタル趣ノ處對本邦移民ノ禁止又ハ制限ニ對シ「ゴメス」總長、「デイトン」次長ノ二名極力反対シタルモ日本移民反対側勝ヲ占メタル趣ナリ

(口) 移植民審議會ニ提出ノ右陸軍側委員提案ニ關シ「レメ」委員ヨリ同化問題ニ付テハ一方學術的方面ヨリ之ヲ研究スヘキト共ニ他方具體的技術ニ付檢討ノ要アリ依テ學術上ノ専門家及實際問題ニ付造詣アル人々ノ意見ヲ徵スルコト必要ナリト提議シタル結果當地醫科大學生理學教授「オゾリオ、デ、アルメイダ」及聖州鐵道會社理事「エイトール、デ、カルバーリヨ」兩氏ノ意見

ヲ徵シタルニ前者ハ日本人ト白色人種トノ混血ヨリ優良人種生セストテ間接ニ日本移民反対ヲ唱ヘ後者ハ日本ハ水銀ト同シク如何ニ之カ分散ヲ圖ルモ軀テ一體ニ還元スル不同化人種ナリト述ヘタル處「レメ」委員ハ右兩氏ハ元來排日的色彩アル人物ナルヲ以テ右兩氏ノ意見ヲ以テ直ニ本問題ヲ決定スルハ不當トシ更ニ大僧正其ノ他公正ナル立場ニ在ル人々ノ意見ヲモ徵スヘシトノ議ヲ提出シタル趣ナリ

二<sup>(2)</sup>、右ノ如ク參謀本部内ニ於テ獨逸、波蘭、日本ノ對伯活動ニ對シ猜疑ノ眼ヲ注ギ居ル者モアリ各般ノ伯國化運動近來益々強化ノ傾向アリ九日波蘭公使ハ本使ニ對シ「伯國官憲ハ波蘭系學校團體ヲ壓迫スルノミナラス教會ニ迄干渉シ「パラナ」州ニ於テ波蘭人神父外國語ヲ以テ説教セル理由ヲ以テ逮捕監禁セラレタル者アリ自分ハ「ナシヨナリゼイシヨン」運動ハ悉ク「マイラ・バス・コンセーロス」將軍ノ指導ニ出ツルモノト觀居ルカ外務大臣等ニ對シ波蘭系子弟ニ波蘭語ヲ教フルコトハ家庭ノ規律維持ノ爲必要ナリトノ説明ヲモ爲シ居ルモ未タ別段ノ效果ナク學校再開ノ見込立タス」云々ト語リ獨逸代理大使モ獨

逸人神父中逮捕監禁セラレタル者アリ又「リオグランデ」

州ノ獨逸人學校ニ對スル伯國側壓迫依然繼續閉鎖ヲ免レ

サルヤモ測ラレス云々ト語レルカ本件伯國化運動ハ必然

的ニ外國人ノ教育問題ニ反映シ最近諸新聞ハ初等教育ノ

伯國化ヲ反覆スルト共ニ聯邦教育局長ハ新聞紙ニ對シ別

(省略)

電第二八七號ノ如キ會談ヲ爲シ特ニ邦人學校ヲ例示シテ

初等教育伯國化ノ必要ヲ強調シタルカ一方聖市ニ於テハ

右伯國化運動ト共產派運動トノ間ニ聯絡アルヤノ諜報モ

アリ既報中央當局ノ澤田大使ニ對スル好意的言明ニ拘ラ

ス邦人教育問題ハ今後困難ナル情勢ニ立至ルヘキカト案

セラル

三、本件ニ關シ外務大臣、參謀總長其ノ他關係當局ニ對シ措

置中ナルモ右不取敢

聖市ヘ轉電シ管下各館へ暗送セリ

~~~~~

1116 昭和13年12月13日 在ブラジル天城臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

移民禁止法案の移植民審議会上程に關し
ジル外相へ注意喚起について

サルニ付折角努力ヲ試ミ居レリ

リオデジヤネイロ

12月13日後發

本省 12月14日前着

第二八八號

往電第二八六號ニ關シ

(一)十二日外務大臣ヲ往訪日本移民ニ關スル參謀本部情報ノ

無根ヲ指摘シ審議會ニ於ケル日本移民禁止案阻止方申入

レタル處外務大臣ハ「メイラ・バス・コンセーロス」中

將其ノ他將校中取ルニ足ラヌ情報ヲ持寄リ議論シ居ル者

アルカ之ハ齒牙ニ掛クル必要ナク日本カ伯國ニ對シ政治

的野心ナキコトハ能ク承知シ居リ又伯國ハ日本移民ニ滿

足シ居ルヲ以テ日本移民ヲ禁止スルカ如キコトナキニ付

御安心アリ度シト述ヘタリ

(二)教育問題ニ付テハ外務大臣ニ對シ澤田大使トノ會談(往電第二六四號)ヲ援用シ又「サンパウロ」州當局最近ノ

態度ヲ説明シ我方希望條項實施方ニ付努力ヲ求メタル處

外務大臣ハ本問題ハ移民審議會ニテ研究中ナルカ日本人

學校ニ困難ヲ生スルコトナキ様措置方研究スヘシト述ヘ

タリ本件ニ關シテハ冒頭往電ノ如キ事情モアリ樂觀シ得

聖市へ轉電シ其ノ他管下各館へ暗送セリ

1117

昭和13年12月23日

有田外務大臣より
在ブラジル天城臨時代理大使宛(電報)

移民禁止法案が成立せざるよう尽力方在本邦

ブラジル大使へ覚書手交について

別電

昭和十三年十二月二十三日發有田外務大臣より
在ブラジル天城臨時代理大使宛第一四三三号
右覺書要旨

本省 12月23日後9時10分發

第一四二號

貴電第二八六號及第二八八號二關シ

御來示ノ如キ事態ニ鑑ミ當方トシテモ本邦カ伯國ニ對シ何等政治的野心ヲ有シ居ラサルコトヲ強ク確言シ以テ法案不成立ヲ期スル様取計ヒ置クコト適當ト認メタルニ付二十二日澤田次官「ベローブ」大使ヲ招致シ別電第一四三號ノ趣旨ヲ書物ニシテ手交シタル上更ニ口頭ヲ以テ右ヲ敷衍説明シ日本移民ハ伯國奥地ノ開發ニ寄與シ且移民カ直接間接ノ動機トナリ同國ヨリ六、七千萬圓ニ達スル輸入ヲ爲シ居ル

ニ拘ハラス軍部等ノ間ニ我對伯移民ヲ以テ帝國主義的企圖ヲ有スルカ如キ宣傳アルハ甚々遺憾ナリ特ニ最近貴國ニ於ケル反獨思想カ惹ヒテハ排日思想トナリ本邦カ獨逸ト結ビ貴國ニ對シ政治的策動ヲ爲スト云フカ如キハ誤解モ甚シキ次第ニテ日獨防共協定ハ唯「コミニンテルン」ノ策動ニ對スル兩國ノ共同防禦戰線ニ外ナラス我國ハ目下東亞ニ於テ大事業ヲ遂行シ居リ殊更南米ニ政治的野心ヲ以テ策動スルコトハ其ノ餘裕モ必要モ無キ次第ナルニ拘ハラス斯様ナ情報ヲ基礎トスル移民排斥法案カ成立スル如キコトアラハ日伯親善ノ諸機構ハ一氣ニシテ崩壊サルルコト明カナリ就テハ貴大使ニ於テ敍上ノ諸點ヲ可然政府ニ申傳ヘラレ法案ヲ成立セシメサル様且又軍部其ノ他ノ誤解ヲ闡明スル様盡力セラレ度シト述ヘタル處大使ハ伯國軍部内ニ此種ノ噂ヲナシ居ル者アルコトハ自分モ承知シ居ルモ日本ガ斯ル政治的野心無キコトハ信シテ疑ハサル處ニシテ既ニ自分ハ本省ニ對シ日本ノ軍部ハ强大ナリト雖モ右ニハ「リミット」アリ地理的關係迄モ無視シテ伯國ニ畫策スルカ如キコトハ到底アリ得ヘカラサルコトナリトノ次第ヲ具申シ又着任以來二回ニ亘リ大統領ニ宛テ本邦移民ニ對シ差別的措置ヲ執ルコト

アラハ日伯關係ハ之カ爲破壞サルベシト建言シタル處大統領官房長ヨリ之ニ對シ決シテ差別的措置ヲ執ルコト無シトノ確言ヲ受ケタル次第モアリ今般ノ法案ナルモノモ外務大臣カ代理大使ニ述ヘタル如ク決シテ重要要視スヘキモノニ非ルヘク之カ成立スル事萬々無ント信ス御申越ノ次第ハ政府ニ傳達スヘキ處其ノ結果トシテハ必ス上述ノ如キ確言ヲ繰返シ得ルコトト信シ居ル旨答ヘタリ

以上御含ミノ上審議會ニ於ケル本案成行今後共充分御注意相成度シ

別電ト共ニ聖市ニ暗送アリタシ

(別 電)

本 省 12月23日後9時15分発

第一四三號

在伯大使館ノ報告ニ依レハ移民審議會ニ日本移民禁止法案提出セラレ且同案ハ日本カ某國ト提携シ伯國ニ政治的野心

ヲ有ストノ軍部筋ノ情報ニ基クモノト認ムラルル由ナリ(以下貴電第二八八號(一)貴官ト外務大臣トノ會談ヲ略記ス)

外相ノ言葉ハ深ク感謝スルモ近來伯國ニ於テハ日本ノ防共

政策ヲ以テ中南米ニ於ケル策動ノ具ト見ル如キ見解アルニ鑑ミ日本ハ同地方ニ何等政治的企圖ナキコト又陰密ナル干渉ヲ爲スタメニ第三國ト結ヒ居ルカ如キコト全然無之コトヲ茲ニ確言ス就テハ閣下ハ右帝國政府ノ確言ヲ外務大臣ニ傳達セラレ以テ伯國政府カ所謂日本ノ政治的野心ニ關スル不當ナル情報ヲ解消セラレ且日本移民禁止法案ヲ防止スルタメニ必要ナル措置ヲ執ラレンコトヲ希望ス

~~~~~

1118

昭和14年3月9日 有田外務大臣より  
在ブラジル桑島大使宛

ブラジルにおける集団移民の年齢制限を緩和  
に導くよう工作方訓令

米二機密第一八號

昭和拾四年參月九日

外務大臣 有田 八郎

在伯國

特命全權大使 桑島 主計殿

伯國向移民送出ノ可能性ニ關スル件

本件ニ關シテハ客年七月八日附米二機密第五〇號往信ヲ以

#### 4 ブラジル（移民問題）

テ委細申進置キタル處其後ノ内地ノ事情ハ對伯移民ノ募集ヲ一層困難ナラシムルモノアリ特ニ集團移民募集ニ對スル最大ノ難點ハ移民法施行細則第六十一條屬項第一ニシテ十八才以上五十才未満ノ可適勞働者三人以上ヲ以テスル家族ノ構成ハ從前十二才以上六十才未満ナリシコトニ比較シ甚大ナル制限ヲ受クルモノニシテ特ニ本邦移民ノ如ク壯年男女ヲ中心トスル家族ニ在リテハ十八才以上ノ子女ヲ有スルモノ少ク募集ノ範圍ハ著敷狭メラル次第ナリ海外興業會社ニ於テハ敍上ノ困難ニ不拘割當數丈ヶハ送出致度キ意向ニテ終始對策ヲ構シ居ルモ（別添附屬書參照）〔見当ラズ〕目下ノ所本年度ニ於テ割當數丈ヶノ送出ハ其ノ見込ツキ難キ有様ナリ（コノ點貴官御含ミ迄）

依而我方トシテハ施行細則第六十一條ノ制限カ從前通りニ改訂セラル、カ少ク共十八才年齡ノ低下ヲ希望スルモノナル處右ハ公布早々ノ現行法規ノ改正ヲ要スルモノナルニ付速急實現ヲ期待スルハ困難ナルヤニモ被存ルモ本規定ニ依リ不利ノ影響ヲ受クルモノハ獨リ我方ノミナラス他ノ移民送出國モ同様ナルヘク現ニ海興、宮腰支店長ヨリ本社宛一月廿七日附情報ニ依レバ之ノ件ニ付移民審議會ニ提案ノ氣配

モ動キ始メ居ル様ニモ見受ケラルルニ就テハ貴方ニ於テモ斯ル空氣ノ釀成方可然御工作相成何等カノ様式ニ依リ本制限ノ緩和ニ導ク様御配慮相成度

尙最低割當數三千人未満ノ國ニシテ既ニ右限度迄引上ノ認可ヲ得タル國アル處之等諸國ハ實際相當數ノ移民送出ノ見込ヲ立テ居ル模様ナリヤ（前掲宮腰報告ニ依レバ和蘭及瑞西兩國ハ移民送出ヲ企劃シ居ル由）又本規定其他新法實施ヲ契期トシ歐洲移民誘入ノ爲別段ノ計劃等内議ノ氣配アリヤ此等ノ點ニ付何等御聞及ノ次第アラバ隨時御報告相成度ク又融通條項適用ノタメノ移民協定締結ニ關シテハ未タ各國トモ具体的の話合ナキコトト存セラルモ之等ノ諸點ニ付テモ御聞込ノ事情ハ同様隨時御報告相成度

本信寫送付先 在サンパウロ坂根總領事

1119  
昭和14年4月27日  
在ブラジル桑島大使より  
有田外務大臣宛

集団移民の年齢制限緩和や移民入国割當数の  
引上げなどブラジル移民法をめぐる情報報告

（接受日不明）

昭和十四年四月廿七日

在 伯

特命全權大使 桑島 主計

外務大臣 有田 八郎殿

伯國向移民送出ノ可能性ニ關スル件

本件ニ關シ本年三月九日附米二機密第一八號ヲ以テ御申越

ノ次第有之仍テ不取敢左記報告ス

記

一、施行細則第六十一條

施行細則第六十一條可適勞働者ノ年齢制限ニ關シテハ聖  
州政府ヨリ最低年齢ヲ十八歳トナスハ條件過酷ニシテ移  
民ノ渡伯困難ナルヲ以テ之レヲ十四歳ニ低下スル様移民  
審議會ニ提案アリ審議會ハ三月十三日ノ會議ニ於テ之ヲ  
採用シ施行細則ヲ右様改正スヘク大統領ニ提議スルノ決  
議ヲ爲セリ

右ハ大統領ノ裁可アルヘキモノト期待セラル、モ目下大  
統領多忙ノ爲裁可未濟ノ趣ナリ

二、移民割當數ノ引上ヶ

最低割當數ヲ三千人迄引上ヶシメタル國ハ諾威、瑞西、

三、葡萄牙移民

四月十四日移民審議會ハ葡萄牙人ノ入國數ヲ無制限トス  
ル旨決議セリ尤モ右決議ハ大統領ノ裁可ヲ經テ初メテ有  
效トナル次第ナルガ本決議ハ理論上憲法二分條項ノ趣旨  
ニ反スルヲ以テ大統領ノ裁可ニ付テハ注目セラレ居レリ

十九日葡國首府「リスボン」發行ノ「オ・セークロ」紙

「ルクセンブルグ」、英、米、和蘭、亞爾然丁ナルカ其ノ  
主タル目的ハ英大使及和蘭公使ノ本使ニ對スル談話ニ依  
レハ割當數ノ二割ハ農業移民タルコトヲ要セストノ移民  
法ノ條項ヲ利用シ商人、會社使用人、技術家其他ノ非農  
業者ノ入國數ヲ能フ限り多ク留保シ置クニ在リテ農業移  
民ノ入國ヲ企圖スルニ非サルモノノ如シ

尤モ瑞西ハ現在對伯農業移民毎年二百人前後ニシテ移民

法ニ割當テラレタル一四四名ハ現狀ニ適セサルヲ以テ引  
上條項ノ援用ヲ促シ右三百人前後ノ農業移民入國ニ支障  
ナカラシメントシタルモノナル由

移民審議會カ右引上ヲ許可スルニ當リ當該國移民ハ「人  
種的、經濟的及文化的」見地ニ於テ伯國ノ利益ニ合致ス  
ル旨附加シ居ルコトハ注目ニ値ス

ハ葡國ハ廣大ナル植民地ヲ有スルモ各般ノ施設未タ不完

### ル外相へ尽力方要請について

リオデジヤネイロ 9月25日後發

本 省 9月26日後着

### 第二三六號

全ニシテ同國ノ過剩人口ヲ收容スルニ足ラサル現狀ナルヲ以テ移民審議會ノ決議ニ依ル伯國ノ無制限移入ハ固ヨリ歡迎スル所ナルモ葡國移民ノ伯國開發ニ對スル報酬トシテ其ノ母國送金等ニ何等ノ制限等ヲ付セサルコトヲ希望スル旨ヲ強調セリ

### 四、移民條約

前述ノ如ク歐洲諸國ニシテ別ニ對伯移民ノ增加ヲ企圖シ居ルモノナキモノノ如キモ伯國政府ハ歐洲移民歡迎ノ爲諾威、和蘭、瑞西ニハ移民條約締結ヲ提議シ右提議ハ各本國ニ於テ目下考慮中ノ趣ナルカ該條約案ハ極メテ簡單ニシテ二、三條ヨリ成リ移民問題ニ關スル情報交換移民諸問題ノ討議ノ爲一ノ混合小委員會ヲ設置スルコトヲ内容トスルモノノ如シ

〔本信寫送付先 管内各館〕



1120 昭和15年9月25日 在ブラジル桑島大使より  
松岡外務大臣宛電報

### 日本人移民入国割当数の引上げに關しブラジ

增進上誠ニ遺憾ニ堪エスト答ヘタルニ外相ハ然ラハ移民法所規ノ手續ニ依ラス伯國側ヨリ進ンテ日本移民ヲ三〇〇〇名ニ引上ル様特別ノ取計方考慮スヘシトノコトナリシカ右ハ全然其ノ先例ナク又審議會内ノ空氣ニ徵シ實現容易ナラスト思考セルモ折角ノ好意且ハ當國移民制限力專ラ本邦移

民ヲ目的トシテ發生シタルモノナルニ鑑ミ幸ヒ外相提議ノ方法三多年ノ懸案ノ解決ヲ見ルニ於テハ益々兩國民ノ好感ヲ深メ國交ノ親善増進ニ資スルコト大ナリト認メ其ノ盡力ヲ懇請シ置キタル處數日前外相ハ關係方面ノ說得ニ努メ大統領ノ同意ヲ得タル旨内話セリ尙二十三日暇乞ノ爲(請カ)閱見ノ際大統領ハ日本人ノ優秀ナルヲ推賞シ本件ニ付外相所見ト全然同一ナルカ手續等ノ關係上急遽ニ實現シ得サルハ諒トセラレタシト述ヘタルカ二十四日外相ヨリ大統領ハ自分（外相）ニ對シ兩國ノ相互利益ニ合致スルニ於テハ本件可能性ヲ考慮スルニ異存ナキ趣本使ニ明言方ヲ承諾セル旨半公信ヲ以テ申越セルニ付此ノ上トモ實現方依頼シ置ケリ

日米國交斷絕ノ際在伯移民ノ前途如何ハ公然ノ論議ハナキモ内心何レモ不安ヲ感シ居ル實狀ナル處問題ハ結局生計問題ニ歸スヘク就中棉作業者ノ夫レナリ蓋シ對日輸出杜絶ハ棉ノ値下り及滯貨ヲ來シ珈琲ヘノ耕作ハ容易ナラス爲ニ非常ナル苦境ニ陥ルヘク之ニ對シテハ生計ノ新方針カ立ツ迄關係會社ヨリノ金融ニ依リ食ヒ繫ク外ナキ力如ク之力爲ニハ我政府ヨリ商社ニ對シ「コンペンセイション」ヲ要スヘシ御考慮置キヲ請フ

大部分國內消費物ヲ作ル在米農業移民ト異リ且二十餘萬ニ達スル當國ニ取り大問題ニ付政府ノ方針何分ノ儀御指示請フ

尙貴電第一四號ニ依レハ目下伯刺西爾移民獎勵中ノ趣ナルカ右ハ前記困難ヲ大ナラシムルニ付自制セラルル様致度シ「サンパウロ」ヘ暗送セリ

### 日本國交斷絕の場合における在伯日本人移民の救済対策につき請訓

リオデジヤネイロ 1月29日後發

本省 1月30日後着

移民政策を変更すべく検討中とのブラジル大統領の内話について

1121 昭和16年1月29日 在ブラジル石射大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

（外相）ニ對シ兩國ノ相互利益ニ合致スルニ於テハ本件可能性ヲ考慮スルニ異存ナキ趣本使ニ明言方ヲ承諾セル旨半公信ヲ以テ申越セルニ付此ノ上トモ實現方依頼シ置ケリ

1122 昭和16年5月30日 在ブラジル石射大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

リオデジヤネイロ 5月30日後発

本省 5月31日夜着

第一七九號(極祕)

往電第一七七號ニ關シ

本使ヨリ伯國政府ハ時局ニ鑑ミ移民政策ニ何等カ變更ヲ加

フル計畫アル次第ナリヤト切出シタル處大統領ハ之ヲ肯定

シ移民審議會ヲシテ目下研究セシメ居レリト答ヘタリ然ラ

ハ豫テ申請中ノ移民四百名ノ查證未許可ト審議會ト關係ア

リヤト問ヘルニ右ハ關係ナシ審議會ニ於テ何等カ決定アル

迄ハ從來通り移民ノ來航差支ヘナシ四百名ノ查證方ニ付テ

ハ一昨火曜日差支ヘナキ旨口頭ニテ外務大臣ニ authorize シ

タリト言ヘリ本使ハ今後移民ノ查證ハ一々大統領ノ裁可ヲ  
經ルコトナルヤト尋不タルニ大統領ハ原則トシテ内務大  
臣限リニテ決定差支ヘナキモノナリト言ヘリ

大統領カ主務大臣ニ非サル外務大臣ニ四百名移民ノ查證差

支ヘナシト指圖セルハ腑ニ落チサルニ付内務大臣ヨリ提出

ノ查證書類ニハ裁可ヲ與ヘラレシヤト尋不タルニ大統領ハ

外務大臣ニ指圖セル旨繰返シ明答セス本使近日中外務大臣

ト會見ノ上事情ヲ確ムル積リニテ手配中

移民問題ニ關スル所見追電スヘキモ右不取敢

~~~~~

1123

昭和16年6月2日 在
在
リオデジヤネイロ

松岡外務大臣宛(電報)

国内保安の必要から移民入国の一時停止を内

相が大統領へ具申したとのブラジル外相の内

話について

リオデジヤネイロ 6月2日後発

本省 6月3日前着

第一八五號

往電第一七九號ニ關シ

本二日ノ會談ニ於テ外務大臣ハ往電第一八一號ノ四百名ノ

移民查證ノ遲延シタル理由トシテ「實ハ主務官廳タル内務

大臣カ國內保安ノ必要上戰爭繼續中一切ノ移民ノ入國(葡

萄牙及米洲ヲ除ク)ヲ一時停止シタルシトノ意見ヲ大統領ニ

具申シタル爲メ本件查證モ滞り居タル次第ナルカ之ヲ知リ

タル自分(外務大臣)ハ將來停止スルヤ否ヤノ問題ト此ノ四

百名ノ件ハ別問題ナリト主張シテ查證方裁可ヲ得タル次第

ナリ」ト述ヘ尙本使ノ質問ニ答ヘ「右内務大臣ノ意見具申

二對シ大統領ハ其ノ適否ヲ移民審議會ヲシテ研究セシメツツアリ」ト言ヘリ本使ハ日本移民ノ入國ハ伯國內ノ治安ニ毫モ「トラブル」ヲ與フルモノニアラサルニ付將來トモ其ノ來航ヲ停止スルコトナキ様配慮ヲ願フト申入レタルニ大臣ハ之ヲ諾シナカラモ日本移民ノ功績ハ自分モヨク之ヲ知ルモ權限カ内務大臣ニ移リ思フ様ニナラスト聊カ困ツタ顔ヲ爲シ居タリ

聖市ヘ轉電セリ

1124

昭和16年6月5日

在⁽¹⁾ブラジル石射大使より
松岡外務大臣宛(電報)

ブラジル政府の移民政策変更に鑑み対伯新移

民の送出を自制するよう意見具申

リオデジヤネイロ 6月5日前發

本 省 6月6日後着

⁽²⁾

第一九三號(極祕)

往電第一七九號末段ニ關シ移民問題ニ關スル卑見左ニ開陳ス
一、本使カ移民政策變更ノ意図アリヤヲ弊頭大統領ニ質問シ

タルハ四百名移民ノ查證遲延ニ關聯シ伯國政府部内ニ何等力蟠リアルニ非スヤト思考シタルカ爲ニシテ大統領ノ答ト往電第一八五號「アラニヤ」外相ノ説明トニ依リ事態判明シタル次第ナルカ斯ノ如ク移民問題ニ手ヲ著ケル以上ハ從來ノ歴史ニ徵シ審議會ノ討審モ恐ラク我方ニ有利ナル結果ヲ齎ラササルモノト覺悟セサルヘカラス

二、外國人ニ對スル查證ノ制限カ移民入國ノ即時停止ニ迄強化セラレントスルハ貴電第八七號ノ如ク一概ニ米國方面ノ壓迫ニ基クモノトハ斷シ難ク惟フニ戰局ノ發展ニ伴ヒ猶太人其ノ他ノ好マシカラサルモノカ避難的ニ伯刺西爾ニ押寄セ交戰國ノ諜報其ノ他ノ工作ノ足場トナルヲ未然ニ防止セントスルコトカ有力ナル原因ナルヘク往電第一八五號内務大臣ノ主張スル公安維持理由モ此處ニ論據ヲ置クモノカト想像セラレ

三、最近葡萄牙人ヲ除キ外國ヨリノ移民殆ト來航セサル實狀ナルニ我方カ伯國側ノ斯カル氣持ニ才構ヒナク定期船毎ニ八釜敷ク多數移民ノ查證ヲ請求シ然モ農業ノ經驗ニ乏シキ轉失業者ヲ渡航セシメントスルカ如キハ徒ラニ伯國側ノ神經ヲ焦ラセ本邦移民反對ノ空氣ヲ濃化スル虞アリ

（現ニ今回主務官廳トナリタル内務省有力係官中ニハ札附ノ日本移民反對論者アリテ最近日本人ノ入國數力從來ノ記録ヲ破り葡萄牙人ヲモ超ヘ居ル事實ニ驚キ何トカ防止策ヲ講セサルヘカラスト漏ラシタル旨ノ聞込モアリ他方日米間事アル場合現在ノ我カ移民スラ餘程ノ困窮者ヲ出スナラント思ハル際此ノ上更ニ多數ノ轉失業者ヲ送リ込ムカ如キハ今後ノ事態ニ處スル道ニ非ルト共ニ斷シテ新移民ノ幸福ヲ計ル所以ニ非スト存セラル）
(3)就テハ内地ノ事情ハ萬々諒トスルモ前記諸點御賢察ノ上新移民ノ送出ヲ自制シ暫ク事態ノ推移ヲ見ルコトト致度シ（最近あらびあ丸移民ハ六割カ轉失業者ニシテ前々回ぶえのすあいれす丸移民ニ比シ比率著シク増大シ邦字新聞ハ不謹慎ニモ之ヲ發表セリ）

四、本使ハ我カ移民カ全然差止メヲ喰フカ如キコトナキ様此ノ上共極力努力スヘキモ不幸ニシテ移民審議會研究ノ意見カ我方ニ不利ニシテ然モ伯國政府モ亦其ノ意見ヲ採用スルコトアリテモ我方トシテハ騒キ立ツルコトナク冷靜ニ事態ノ改善ヲ工作スルコトト致度ク然ラサレハ我方ヘノ必要物資ノ輸出ニ迄惡影響ヲ來ス虞大ナリ

1125

昭和16年7月18日

在ブラジル石射大使より
豊田外務大臣宛（電報）

ブラジルの対日空氣悪化を勘案し移民査証の

吾、最近獨伊大使ノ内話ニ依レハ伯國政府ハ獨伊人ニ對シテハ全然入國查證ヲ與ヘサル由ナリ又紐育「ブエノスアイレス」方面ヨリ來ル我カ商社員ノ入國查證モ當館ノ斡旋ニ拘ハラス取付極メテ困難ナル實狀ナリ尙又先般海興ヨリ移民審議會ニ提出セル一九四一年度分團體移民誘入許可願ハ内容不備ノ理由ニテ却下セラレ我方ニ好意ヲ有スル一委員ハ長谷川ニ對シ再審議願ノ提出ハ事態ヲ複雜化スル虞アルヲ以テ當分ノ内差控フル方宜敷カルヘキ旨忠告セル經緯モアリ之等ハ前記當國政府部内ノ意嚮ヲ反映スルモノト認メラル

六、尙海興本社ハ本月下旬發「ブエノスアイレス」丸ニテ既ニ政府ノ許可セル四百名ノ外ニ更ニ二百名ノ新移民追加ノ希望ヲ有シ居ル由ナルカ右ノ次第二顧ミ同船ニ依ル移民ハ四百名ニテ打切ラシムル様致度

以上卑見政府ニ於テ御採用ヲ請フ

申請は当分留保すべき旨意見眞申

リオデジヤネイロ 7月18日後発

本 省 7月19日夜着

第二六九號

往電第三二七號末段ニ關シ（對伯移民送出方針ノ件）

本邦船ノ來航困難ニ伴ヒ我力移民ノ今後ノ渡來モ事實問題トシテ中絶トナルモノト存セラルモ十七日會談ノ際打診シタル處外相ハ其ノ後移民審議會ニ於テ如何ナル意見ニ到達セルヤ承知シ居ラサルモ日本側ヨリ查證ノ申出アラハ自分トシテハ從來通り内務大臣ニ移牒シ差支ナシト考フ内相ノ態度ハ前回ノ場合ニテ明カナルカ大統領ノ所迄出レハ或ハ裁可セラルヘキカト思フト云ヘリ

外務大臣ハ斯ク無造作ニ云ヒ居ルモ今後ノ移民查證要求ハ我方ニ不利ナル空氣ヲ濃化スヘキニ付當分問題ヲ伏セ置クコト可然ト存セラル

聖市ニ轉電セリ

